

第5回対話の場について

第5回

- 日時：2021年12月9日（木）18：30～
- 場所：漁村センター
- 出席者：委員17名、ファシリテーター6名、神恵内村、経済産業省、北海道庁、NUMO

<対話のテーマ>

- ① 幌延深地層研究センター視察結果報告
- ② 運営委員会の開催結果報告(村民アンケートの実施)
- ③ 「北海道における特定放射性廃棄物に関する条例」について
- ④ 文献調査に関するワークショップ、質疑応答



※当日の資料などについては、NUMOのホームページや神恵内交流センターで掲載・配布しております。より詳しい内容にご関心のある方には、交流センター職員がご説明に伺いますので、以下の問い合わせ窓口までお気軽にご連絡ください。(電話番号:0135-67-7711)

①幌延深地層研究センター視察(11/25,26)結果報告

- 視察の概要
 - ・ 参加者：対話の場委員5名、神恵内村職員3名、ファシリテーター3名
 - ・ 内容：研究の概要説明、地上施設（地層処分実規模試験施設等）の見学、地下施設の見学、振り返り勉強会。



②運営委員会の開催結果報告(村民アンケートの実施)

- 地層処分事業などに関する村民のみなさまのご関心事項を把握し、対話の場のテーマや実施内容の参考とさせていただくためのものです。
無記名で回答できるハガキを、全戸に配布いたしますので、ご協力をお願いいたします。

③「北海道における特定放射性廃棄物に関する条例」について

- 前回の対話の場において、「北海道における特定放射性廃棄物に関する条例（以下、条例）」について質問があったことから、北海道庁から、条例の制定経緯や、道の文献調査に対する考え方について説明がありました。

④文献調査に関するワークショップ、質疑応答

- 5人程度のグループに分かれて、神恵内の白地図に地質図などの情報を転記して、文献調査の作業を体験していただきました。
- ワークショップ後、委員のみなさまから文献調査に関する質問事項をだしていただき、NUMOの文献調査担当者から回答を行いました。



ワークショップの様子



質疑応答の様子

くいただいた質問と回答（文献調査に関する主なもの）>

【ご質問】文献調査って、誰が調査しているの？

- 火山や断層活動等の分野ごとに「文献・データの収集」⇒「文献・データに基づく評価」⇒「報告書の作成」という作業をNUMO職員自ら進めています。
- 各分野に依りて、地質や土木などの専門技術者が担当する他、品質管理、説明資料作成などの担当も含めて、20数名が直接、文献調査に携わっています。
- また、「文献・データの収集」について、収集した数値データの図化、処理など情報の整理には多くの作業が必要となるところ、作業の一部は、専門技術を有する事業者へ委託することで、作業を効率化しています。

【ご質問】地質図は、誰が、どうやって、いつ調べたの？

- 地質図は、産業技術総合研究所・北海道立の地質の研究機関などが作成しています。
- 担当者が、川を遡って、川底や川岸の地質を調べて、地図に記入します。多くの川を遡って、それぞれの記録を地図上でつなげる事で、地質図を作成します。
- 地質図は、様々な時代に何度か作成されており、それらを取りまとめるという作業が行われています。なお、作成した時期は、地質図に記載してあります。

対話の場における配布資料や映像は、NUMOホームページでご覧いただけます。

アクセス方法

